

サバイデー通信

第6号

発行日 2022. 3. 22

発行者 生澤康二郎

※サバイデー (สบายดี) はタイ語で「元気です」という意味。

タイの聾学校に赴任して、4か月が過ぎました。季節も乾季から暑季に変わり、本格的な夏を迎えています。日中は40度近くになることも度々あり、クーラーが手放せない日々が続いています。

先日、校内にある田んぼで稲刈りを行いました。この活動は、タイで何世代にもわたって受け継がれてきた稲作農法を学ぶことと、伝統文化を引き継ぐことがねらいということでした。私は初めての稲刈り体験に胸を躍らせながら参加し、昔ながらの手法「手刈り」を学ばせていただきました。

日本		タイ
春夏秋冬	季節	暑季・雨季・乾季
4月～6月	田植え	11月
9月～10月	稲刈り	3月



1 卒業式

暖かい日差しの中、3月11日(金) 中学部と高等部の卒業式が合同で行われました。中学部13名、高等部26名の卒業生が巣立っていきました。式では、一人一人が呼名をされた後、校長先生から卒業証書を授与されました。卒業生代表挨拶では、5名の生徒が自分の思いを壇上で話しました。多くの生徒が、幼稚部や小学部の時からこの聾学校で育ち、長い生徒は15年間在籍していたということでした。どの生徒も聞こえる社会に出ていく不安よりも、楽しみのほうが大きいようで、自信をもって壇上で話をしていたのが印象的でした。



思い出ムービーでは、幼稚部や小学部の時などの写真も流れ、歓声が上がると共に、どの生徒も懐かしそうに見ていました。式の最後には、教員が卒業生一人ひとりの手首に仏教のお守りのような白い紐を結びました。私も一人ひとりに言葉を添え、慣れない手つきで結ばせてもらいました。4月からは、中学部の卒業生はそのまま高等部へ、高等部の卒業生は大学や就職など、それぞれの希望する進路に進みます。



聾学校の生徒は、長年、共に育ってきたということもあり、学年の垣根を越えて、本当にみんな仲が良かったです。式後には、卒業生のもとに在校生が駆け寄り、Yシャツに寄せ書きをしたり、写真撮影をしたりし、最後の別れを惜しんでいました。この仲の良さ、そして横や縦の繋がりの深さが聾学校の魅力のようにも感じまし

2 スカウト活動（2月28日～3月2日）

小学部4年生から中学部3年生までを対象に、2泊3日で校内スカウト活動が行われました。本来なら校外での実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、今年度は校内での実施となりました。タイでは、ボーイスカウトの授業が必修となっていて、小学部4年生から中学部3年生までは週1時間、スカウト活動について勉強します。今回は、その延長線上でタイの仏教文化とスカウト活動が融合した宿泊行事が校内で行われました。今回はその中の一部を抜粋して紹介します。



（1）野外炊飯



3日間で3回野外炊飯を行いました。回数を重ねるごとに準備・片付けも早くなり、最終日の朝食はあっという間に作り上げ、片付けまでを時間内に終わらせることができました。

（2）キャンドルファイアー&キャンプファイアー

1日目の夜にキャンドルファイアー、2日目の夜にキャンプファイアーが行われました。キャンドルファイアーでは、全員が白色の服装になり、10分間の瞑想のあと、それぞれが祈りを込めてキャンドルに火を灯しました。最後は、ラマ6世に敬意を表し、とても幻想的な雰囲気でした。



（3）スカウト活動

校外で行う予定だった訓練を校内で再現し、実施しました。本来ならアスレチック訓練等は、兵隊さんが直接指導してくれるということでしたが、今回は教員が指導しました。



3 タイの手話



スカウト活動

右手の人差し指・中指・薬指をくっつけ、目頭のところで敬礼をします。